

池田大作

対談

二十世紀の
精神の教訓

[下]

ミハイル・ゴルバチョフ

聖教ワイド文庫

聖教ワイド文庫

032

池田大作

対談 二十世紀の精神の教訓
[下]

ミハイル・ゴルバチョフ

聖教新聞社

〈対談者略歴〉

ミハイル・S・ゴルバチョフ (Mikhail Sergeevich Gorbachev)

1931 年、ロシア・スタープロポリ地方生まれ。モスクワ大学卒。ソ連邦の初代大統領として「ペレストロイカ」を旗印に根本的な改革を断行。また「新思考外交」を打ち出し、米ソ冷戦を終結させるなど世界平和に大きく寄与した。ノーベル平和賞をはじめ多数の賞を受賞。ゴルバチョフ財団総裁、グリーンクロス・インターナショナル初代会長として世界各地で活動を展開している。

池田大作 (いけだ だいさく)

1928 年、東京生まれ。創価学会名誉会長、創価学会インタナショナル (SGI) 会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所などを創立。世界各国の識者対話を重ね、平和、文化、教育運動を推進。モスクワ大学をはじめ世界の大学・学術機関からの名誉博士、名誉教授の称号、国連平和賞など多数受賞。主著に『人間革命』(全 12 巻) など。

二十世紀の精神の教訓 [下]

発行日 二〇〇七年九月八日

著者 池田大作
M・S・ゴルバチョフ

発行者 松岡 資

発行所 聖教新聞社

〒160-8070 東京都新宿区信濃町一八
電話〇三―三三三―六一一一(大代表)

印刷・製本 大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©2007 D.Ikeda, M.S.Gorbachev Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-412-01365-0

目 次

第五章 新しい文明を求めて

共産主義的全体主義の破綻 ^{はたん}	9
現実的ヒューマニズムと社会主義	41
「内なる革命」による人間主義	74
「新たな人道主義」の世紀	124
「人間復興の世紀」への指標	160

対談を終えて

新思考から新政治へ

.....

ミハイル・S・ゴルバチョフ

209

人間の尊厳の危機を超えて

.....

池田 大作

231

注 解

.....

255

一、本書は、著者の了解を得て、潮出版社発行の単行本および
 聖教新聞社発行『池田大作全集 第百五卷』に収められた
 「二十世紀の精神の教訓」を三分冊し、第五章と「対談を終
 えて」を、[下]として収録したものです。

一、*印を付した人物・事項は、巻末に注解を設け簡単に説明
 しました。

一、編集部による注は（ ）内のⅡの後に記しました。

聖教ワイド文庫

032

池田大作

対談 二十世紀の精神の教訓
[下]

ミハイル・ゴルバチョフ

聖教新聞社

目 次

第五章 新しい文明を求めて

共産主義的全体主義の破綻 ^{はたん}	9
現実的ヒューマニズムと社会主義	41
「内なる革命」による人間主義	74
「新たな人道主義」の世紀	124
「人間復興の世紀」への指標	160

対談を終えて

新思考から新政治へ

.....

ミハイル・S・ゴルバチョフ

209

人間の尊厳の危機を超えて

.....

池田 大作

231

注 解

.....

255

一、本書は、著者の了解を得て、潮出版社発行の単行本および聖教新聞社発行『池田大作全集 第百五卷』に収められた「二十世紀の精神の教訓」を三分冊し、第五章と「対談を終えて」を、[下]として収録したものです。

一、*印を付した人物・事項は、巻末に注解を設け簡単に説明しました。

一、編集部による注は（ ）内のⅡの後に記しました。

二十世紀の精神の教訓

第五章

新しい文明を求めて

共產主義的全体主義の破綻^{はたん}

東欧の変化と現実的社會主義の可能性

池田　ゴルバチョフさん、対談の最終章にあたつて、いよいよ最大の難所^{なんしよ}にさしかかろうとしています。ここで、この数世紀、なかならず二十世紀の人類史をリードしてきた思想の行く末^{ゆすえ}について考えてみたいと思います。

このテーマについては直接お会いをして、また書簡^{しよかん}を通して行ってきた長い対話のなかでこれまでもふれてきましたが、ここでまとめをしてみたいと思います。

社會主義の理想はどうなったのか？　時の試練^{しれん}に耐えぬいたのはどのような価値

観か？　進歩というものは存在するのか、また進歩を志向^{しこう}していくべきなのか？

二十世紀の人類にとって、何をすべきであり、何をすべきでないのでしょうか？

私たち日本人がまずなによりも知りたいのは、社会主義の理想の行方ゆくえについてのあなたのお考えです。

ゴルバチョフ 池田さん、これは今でもよくロシアで受ける質問です。

ご存じのとおり、大統領を辞任してからこの数年、私はさまざまな方面からの攻撃げきを受けました。原理主義的コミュニストたちは、私が党を裏切りうらぎ、その理想に違い背したとって非難ひなんしました。リベラル派、急進的民主派は、私が社会主義への忠誠ちゅうせいをつねに強調している、と言っており、いまだに気持ちがおさまらないようです。（笑い）

池田 私は、ペレストロイカ*がどのような局面にあらうと、最も危機きき的な状況にあったときでも、あなたが社会主義思想への変わらぬ忠誠をつらぬいておられたことを知っています。

一九九一年八月、あなたがフォロスきかんから帰還された後のソ連国内の気運きうんも、明らかに社会主義が不利な情勢にありました。国家非常事態委員会のメンバーが共産主

義的言い回しをさけていたのもそのような状況があったからです。しかし、そういった当時の気分にして、あなたは国家非常事態委員会が敗北を喫して、社会主義完成への政治的環境ができてつつある、と言われました。

あなたの社会主義思想・理想への忠誠とは何を意味しているのでしょうか？

今、西側では、「現実的な社会主義」は完全に敗北した。社会主義という思想、その目的は人類文明の発展と相反するものであり、ソ連と東欧諸国の国民に数限りない災い、苦しみをもたらした、と言われています。

これについては、三〇年代初めの飢餓や、スターリンの肅清について、あなたも対談のなかで何度となくお話しになっています。今も信じておられる社会主義、その理想とはどのようなものなのでしょうか？

ゴルバチョフ 私自身のことについてお話ししたいと思います。私をめぐっての論争の原因はどこにあるのでしょうか？

これについては、回想録を出版するにあたって簡単に書いてみました。しかし、この機会をかりて、今おっしゃった現実的社会主義に対する自分の考え、私の考え

る社会主義について述べてみたいと思います。

まず注目^{ちゅうもく}していただきたいことがあります。八〇年代終わりから九〇年代初めにかけて、西側のリベラル派は、ロシア・東欧での社会主義思想の完全な滅亡^{めつぼう}を予言していましたが、その予言は当たらなかったということです。

四十年におよぶ社会主義建設への国民的な不満の高まり、共産党とその幹部への不満がつのるなかで、「ビロード革命^{*}」は血を流すことなく、ポーランドで、つづいてチェコスロバキア、ハンガリー、東ドイツで勝利したのです。

池田 そうですね。東欧の劇的^{げきてき}な変化は、私たちの記憶^{きおく}に鮮明^{せんめい}です。

ゴルバチョフ もつとも、最初はそれほど容易^{ようい}ではありませんでした。ブルガリアでは民主派は今もって彼らを追い出すことができないでいます。

しかし、今、最も驚異^{きやうい}的なことが起こっているのはポーランドです。よく知られているように、ポーランドはブルガリアやチェコスロバキアと違い、共産主義者やマルクスレーニン主義者たちが強固^{きやうこ}な立場を築^{きず}いたことはなく、第二次世界大戦の前にも、また力^{ちから}ずくでスターリン主義的社会主义が植^うえつけられた後にも、決し